

調査研究実施報告書

会 派 名 改革未来・自民の風

代表者名 丸 岡 弘 満

1. 調査年月日

令和5年8月21日（月）・22日（火）

2. 調査先

愛媛県松山市及び伊予市

3. 出席者氏名（面談者含む）

加西市：丸岡弘満、田井真一、高橋佐代子、西脇 親

愛媛県松山市：保健福祉部高齢福祉課 副主幹・宮内 敏

〃 主 査・田中隆浩

議会事務局議事調査課 課 長・水田隆敏

〃 副主幹・大内平臣

愛媛県伊予市：市民福祉部子育て支援課 課 長・太森真喜恵

〃 課長補佐・伊予岡一幸

4. 研究目的及び内容（詳細は別紙1、別紙各視察出席者の所感）

愛媛県松山市：高齢者いきいきチャレンジ事業について

夏休み親子市議会体験ツアーについて

愛媛県伊予市：子どもの居場所「おおぞら」について

上記のとおり報告します。

令和5年9月15日

加西市議会議長 様

※添付書類

①視察行程表（調査時間含む）

②研修資料

③写真

視察の研究目的及び内容

【愛媛県松山市】

1. 高齢者いきいきチャレンジ事業について

令和 5 年 8 月 21 日（月）14:00～15:30

◎研究目的：高齢者の生きがいつくり、認知症予防事業の取り組みを学ぶ。

(1) 事業概要

- ・高齢者の外出機会を増やし、健康を増進するため、平成 30 年 10 月から「高齢者いきいきチャレンジ」で、対象のイベントに参加して、カードにスタンプを貯めると、道後温泉別館 飛鳥乃湯泉の入浴券と引き換えている。
- ・令和 5 年 7 月 12 日（水曜日）からリニューアルし、スマートフォンを使った健康アプリを導入。
- ・イベントに参加するほか、アプリで認知症予防や健康管理を行うとポイントが貯まります。ポイントは、道後温泉別館 飛鳥乃湯泉で利用したり、電子マネーに交換できる。
- ・高齢者の方々の外出の機会をさらに増やし、また無理なく、楽しみながら健康管理を習慣にし、健康寿命の延伸につなげる。
- ・いきいきチャレンジの健康アプリでできること
 - ① 毎日の健康管理
イベントの参加に加え、アプリの健康管理機能を使って、無理なく楽しみながら健康管理を習慣にできる。
 - ② QR コードの読み取り機能
イベントの参加に加え、アプリを使って健康管理を行うことでポイントが貯まる。
 - ③ ポイント利用機能
貯めたポイントは、道後温泉別館・飛鳥乃湯泉で利用できるほか、電子マネー（PayPay）にも交換できる。
 - ④ 万歩計機能
 - ⑤ 脳トレ機能・食事管理機能

(2) 利用状況

アプリ登録者数 8/15 現在 342 人

年齢(歳)	男性(人)	女性(人)	合計(人)
65～69	68	70	138
70～79	77	87	164

80～89	16	23	39
90～	0	1	1
計	161(47%)	181(53%)	342

以前のチャレンジカード時の状況（令和元年度）

イベント数 26

参加者数 4,008人

入浴券交換者数 1,111人

年齢(歳)	男性(人)	女性(人)	合計(人)
65～69	65	156	221
70～79	180	513	693
80～89	51	143	194
90～	3	0	3
計	296(27%)	815(73%)	1,111

(3) アプリ導入の支援

高齢福祉課の窓口でサポートしている。

電話での問い合わせは「脳にいいアプリサポートセンター」（株ベスプラ）を設置している。受付時間は、平日の9:00～18:00。

(4) 高齢者の外出支援策

- ・「まつイチ体操交流・測定会」を開催し、実施グループ間の交流を促進
- ・地域で自主的に介護予防活動をする「ふれあい・いきいきサロン」を支援
- ・医療や介護、健診結果等のデータを活用してフレイルを予防する「高齢者の保健事業と介護予防の一体的推進事業」を令和2年度から実施
- ・健診の受診など健康づくりに取り組むとポイントが貯まり、貯まったポイントで応募すると、抽選で賞品が当たる「健康マイレージ事業」を令和2年度から実施

(5) その他

- ・ポイントの利用状況、健康アプリを加えた後の「高齢者いきいきチャレンジ事業」の変化については、令和5年7月12日からの稼働であるため、状況把握となる。
- ・脳トレゲームの内容と更新頻度は、随時行われている。（株ベスプラ側が実施）
- ・かんたん健康管理への入力は、自身で行っている。
- ・スマートフォンを持っていない方は紙のカードにスタンプを貯める方法で参加できる。

2. 夏休み親子市議会体験ツアーについて

令和5年8月21日（月）15:30～17:00

◎研究目的：次世代の市議会活動への関心と理解を深め、親しまれる市議会をめざした取り組みについて学ぶ。

(1) 開催趣旨

次の時代を担う小学5・6年生とその保護者を招き、議場等の議会施設の見学や子ども自らが実際に模擬市議会を体験することで、市議会活動への関心と理解を深め、市議会を身近に感じていただくとともに、子どもたちの夏休み期間中に開催することで、多くの親子に参加してもらい絆を深めながら、児童たちの夏休みの自由研究などにも活用していただくことを目的とする。

(2) 主催者

松山市議会

(3) 内容

①概要説明

事務局職員が議会のしくみを説明

②施設見学

約3班に分かれて、議場や議長室、正副議長応接室などを見学

③模擬市議会

- ・参加児童が議長役や議員役、市長役や部長役になり、議場で質問や答弁を実施
- ・質問、答弁の内容は、実際に本会議で行われた質問、答弁を基に、議会事務局職員が平易な内容にした原稿を作成し、参加児童に事前に送付している。
- ・模擬市議会の流れ

開会あいさつ（議長）

模擬市議会 招集あいさつ（市長役の児童）

日程第1 会期の決定

日程第2 一般質問

採決

閉会あいさつ（副議長）

(4) 開催実績

年度	日程	参加人数	
		小学生	保護者
平成27年	7/31 13:30～	16	14
	8/2 10:00～	16	16
28年	8/27 13:30～	14	14
29年	7/29 10:00～	15	14
	7/30 14:00～	22	23

30年	7/29 10:00～ 14:00～	台風による警報が出たため中止	
令和元年	7/28 10:00～	14	17
	〃 14:00～	14	15
2年	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止		
3年			
4年	7/31 13:30～	22	22
5年	7/30 10:00～	16	17
	〃 14:00～	13	13

(5) 効果

令和5年度参加者アンケート結果

－児童－

市議会のことを知っていたか・・・あまり知らなかった 59.3%

なんとなく知っていた 29.6%

詳しく知っていた 11.1%

参加後 ↓

市議会に興味があったか・・・とても興味があった 59.3%

・・・どちらかといえば興味があった 37.0%

・・・あまり興味がわかなかった 3.7%

－保護者－

市議会を傍聴したことがあるか・・・ない 100%

参加後 ↓

市議会に興味をもったか・・・とても興味をもった 65.5%

どちらかといえば興味をもった 34.5%

今後、市議会を傍聴してみようと思ったか・・・思った 89.7%

(6) その他

- ・平成28年度は議場改修工事及び9月定例会の日程の都合により1回の実施
- ・令和4年度は新型コロナウイルス感染症の対策を実施した上で1回開催
- ・募集人数については、参加児童全員に模擬市議会での配役を行えるよう、1回あたりの募集児童数を15名程度としている。

【愛媛県伊予市】

1. 子どもの居場所「おおぞら」について

令和5年8月22日（火）10:00～12:00

◎「ひきこもり」や「不登校」の児童・生徒の支援の先進的な取り組みを学ぶ。

(1) 「おおぞら」の運営のねらい

不登校や引きこもり等、家庭や学校に居場所のない子どもが、将来の自立に向けて生き抜く力を育むため、子どもとその家庭が抱える多様な課題に応じた支援を市直営で包括的に提供する。

(2) 運営の基本理念

- ・一人一人の思いに寄り添う。
- ・本人の前向きな姿勢を支援する。

(3) 対象者

伊予市在住の不登校や養育環境などの支援が必要な課題を抱える小・中学生およびその家庭を原則とする。

(4) 開設時間

月～金曜日、12時から20時（祝日、12月29日から1月3日までを除く）

※事前の申し込みで、利用時刻に応じた送迎や夕食が提供可能。

(5) 利用料金

無料 ※活動に必要な個人的な費用は自己負担。

(6) 実施内容

① 安心な居場所

安心・安全な空間の提供、教育相談・家庭訪問

② 生活リズム

健康管理の習慣づけ、日用品の使い方への助言

③ 豊かな体験活動

外遊び・農業体験、年中行事・学校訪問

④ あたたかな食事

バランスの取れた食事、食事マナー・職員との団らん

⑤ 学習サポート

宿題の見守り、進学などのサポート

⑥ 関係機関との連携

学校、保育所、認定こども園、医療機関、民生・児童委員、はばたき教室など

(7) 伊予市の不登校児童・生徒の状況

令和4年10月現在で、44人が不登校傾向にある。そのうち教室に入れる子が11人、

登校しても教室に入れない子が9人、子ども総合センターの「適応指導教室」に入室している子が10人、自宅から外出できない子（いわゆるひきこもり）も14人いる。

令和4年度末には小学生11人と中学生54人の計65人おり、今年度においても7月末現在で小学生3人、中学生35人の計38人となっている。

(8) 設立までの経緯

子どもに関わる様々な問題について、保健・福祉・教育等、より多方面から総合的・専門的な相談・支援を実施する「子ども総合センター」を平成28年に設置。その後、子どもとその家庭をめぐる問題の多様・複雑・深刻化を背景に、相談件数が、初年度の2.5倍の2,198件/年となった。

また、不登校児童等に対し、教職経験者が一人ひとりに寄り添い、子どもの意思を尊重したきめ細やかな支援を行うため平成28年に設置した「適応指導教室はばたき」は、子ども家庭センター同様、解決に向けて多大な時間と労力を要する事案が増加した。特に不登校状態が長引き、ひきこもりとなって孤立してしまう子どもへの支援が課題となっている。

令和4年9月頃より予算編成が始まり、各現場の現状の聞き取りを行ったところ、「子ども総合センター」や「適応指導教室はばたき」の先生方から、はばたきにも来れない「ひきこもり」の小中学生がいることが明らかとなり、この児童をなんとか外へ出してあげたいという、先生方の熱い思いから、「子どもの居場所事業」が必要であるということになり、新規事業として予算編成を行う運びとなった。県内に実施している市町がなく、県外で類似事業を実施している自治体へ問い合わせを行い、事業運営等について情報収集を行った。また、学校教育課へも「子ども総合センター」の先生方から、事業実施について同意を得ていただき、学校サイドとしても、この事業をぜひ実施してほしいとのことであった。

(9) 運営・管理体制

① 責任者、スタッフの人員配置、役割分担

児童指導専門職員1名(家庭児童相談員)、児童支援員3名(家庭児童相談員)、栄養士1名(保育所業務と兼務)、調理員2名

② スタッフの資格

教職員のOB・OGで教員の資格により、児童生徒を支援している。

③ 行政とのコミュニケーション

月2回の職員会とSSW連絡会等に参加している。

(10) 運営方法・状況

① 地域との連携、地域の協力状況

地元区長、学校、医療機関、主任児童委員、民生児童委員等の関係機関と連携している。

② 利用方法、利用料金

学校や「はばたき」から情報提供をしてもらい、面談の上、保護者による申請。利用料は無料だが、食事代は課税状況により、400円か無料となる。

③ 現在の利用者の状況

利用登録は5名

(11) 運営費（令和5年度予算）

国庫支出金（補助率 1/2）	10,758,000 円	
県支出金（補助率 1/4）	5,379,000 円	
一般財源（補助率 1/4）	5,381,000 円	
その他	480,000 円	（食費（実費徴収分））
総 額	21,998,000 円	

(12) 今後の方針、目指す支援

将来的にはNPO法人等への委託を検討。

まず、自宅から一歩外へ出ることを目的としており、順調にいけば「はばたき」へとつなぎ、学校復帰をすることを目指している。

個人の状況により、潜在的に発達障害などが疑われる場合は、専門的見地から適切な支援につながるよう、発達検査を実施したり、療育支援を検討する等、保護者とも相談しながら、本人にとって最適な支援を提供したいと考えている。

【愛媛県松山市】

①「高齢者いきいきチャレンジ事業の取り組みについて」

「高齢者いきいきチャレンジ事業」は、松山市内に住む高齢者の外出機会の創出や健康習慣の定着を図り、高齢者の健康寿命の延伸を目指した目的を持った事業であり、2023年7月13日より「株式会社ベスプラ」が運営する脳科学に基づいた脳の健康維持スマートフォンアプリ『脳にいいアプリ』と『健康ポイントサービス』を導入して、65歳以上のスマートフォンをお持ちの方であれば手軽に参加できる事業としてリニューアルスタートしている。

従来のイベントの参加に加え、アプリを使って、歩いたり、脳トレしたりしながらポイントを貯めることで、無理なく楽しく健康習慣を身につけるだけでなく、貯めたポイントは、道後温泉別館「飛鳥乃湯泉」で利用できるほか、電子マネー(PayPay)に交換(1Pを0.7円)できていることになっている。市も「飛鳥乃湯泉」での利用促進の観点から電子マネーへの交換率を低くしている点もよく考えられていると思った。

また、フレイル予防としての効果を期待していることからスマートフォンを持っていない方に対しては、従来からのチャレンジカード(紙カード)にスタンプを押す方法で事業参加できるようになっており、市民からの不公平感が出ていないようである。ただ、スタンプ2回で入浴券に交換した令和元年度1,111人の男女別割合(男26.6%、女73.3%)をみると圧倒的に815人と女性が多く、今後は男性の参加数をいかに増やすのかが課題となっている。

そして、この事業については、リニューアルスタートしたばかりということもあり、担当課も事業PRや操作方法を教える草の根活動で事業の普及啓発に努めており、徐々にではあるが問い合わせや窓口対応が多くなって普及効果が出てきているとのことであった。我々も実際にタブレットを使いアプリの操作をさせていただいたが、無理なく簡単に楽しくアプリが利用する体験ができた。ベスプラとの共同研究ということであるが、加西市と違い約100万円の低予算で運用できていることや更にアプリが増え更新できることで飽きずに取り組めること、他の自治体等との連携にも期待できることの可能性のあることに大変勉強になった。

②「夏休み親子市議会体験ツアーについて」

松山市の小学生とその保護者を招き、議場等の議会施設の見学や子ども自らが実際に模擬市議会を体験することで、市議会活動への関心と理解を深め、市議会を身近に感じることを目的に実施されている。体験ツアーの対象は、応募された市内の小学校に通う5年生・6年生（令和5年度 児童32名）とその保護者で、ツアーの当日は午前と午後の部に分かれ、普段は見る事ができない議場等の議会施設を親子一緒の見学と模擬市議会を体験する事業になっている。コロナで中止した年もあるが、毎年30名ほどの応募がある。

模擬市議会では、子ども達が事前に指名された議長や議員、市長・副市長や教育長、各部長の執行者役に扮し、実際の定例会であった質問や答弁を使って議会事務局が作成した台本をもとに進行されるが、参加する子ども達は、事前に台本を読む勉強を一生懸命してから臨んでいるようである。

閉会后、子ども達は一人ひとり感想を述べて体験ツアーは終了するが、ほとんどの子ども達が議会の仕組みや議員の仕事（活動）についての理解と関心を高め、興味を持ったとの前向きな感想を述べ、イベント後に実施するアンケートにおいても、子ども、保護者の約9割から「今後、市議会を傍聴したい」やほぼ全員から「議会に興味を持った」との回答を得て大変好評であると聞いた。また、ある子どもは、2年続けて体験ツアーへ申し込みをしたり、将来議員になるのが夢の一つになったという嬉しい感想もあったとのことであった。

松山市議会では、平成15年度から小学生による模擬市議会の開催を始めているが、平成27年度から現在の実施内容へと変更している。恐らく学校現場や市職員の負担増、多額の実施費用になるなど問題があるために変更したのではないかと推測するが、議会が主体となって夏休み期間中に開催することで、親子一緒に市政や議会について興味を持ってもらい、子どもの夏休みの自由研究にも活用できるという目的や狙い通りに結果や効果が出ていることが大変勉強になった。

若者の選挙の低投票率、政治離れ、議員のなり手不足は、深刻な問題であり、全国各自治体や議会が主体となり、様々な方法で「子ども議会」を実施しているが、市民に開かれた議会を目指す加西市議会としても引き続き調査研究をし、未来の有権者に対する地道な啓発や主権者教育の活動として「子ども議会」を実施すべきであると思った。

【愛媛県伊予市】

①子どもの居場所「おおぞら」の取り組みについて

伊予市は、0歳から18歳までの子どもとその保護者を対象にした育児や子育て、教育等に関する様々な相談に対して、保健師・家庭相談員・心理カウンセラー等のスタッフがいる「こども家庭センター」を平成28年に設置しており、必要な情報の提供や関係機関への連携など幅広い支援を一体的に行っている。また、学校と連携しながら社会自立や不登校児童の学校復帰を目指した適応指導教室「はばたき」では、月曜から金曜までの朝9時から15時30分まで、ふれあいを大切にした集団生活や学習・スポーツ活動などの取り組みやカウンセリング等による心のケアも行う支援をしているが、加西市（令和2年63名、令和3年1月末78名）と同じく、不登校児童数や相談対応は年々増加し、令和4年10月現在44人が不登校傾向であるとの報告が、年度末には65名（小学校11名、中学校54名）となった。

そこで、令和4年9月頃の予算編成時に各現場へ聞き取り調査したところ「こども家庭センター」や「はばたき」に行くこともできず『ひきこもり』となって孤立してしまう小中学生がいることが明らかになり、先生方の『児童をなんとか外へ出してあげたい』という熱い思いから財政部局との協議を経て「子どもの居場所」事業実施が決定したということであった。ただ、県内では実施している市町がなく、県外で類似事業を実施している自治体への問い合わせや運営について情報収集を行って事業実施をすることが出来たとのことであった。特に、平成29年から「ひきこもり支援センター」を開設するなど、全国的にも先進的な取り組みをしている岡山県総社市と「ひきこもり支援包括連携協定」（令和5年7月）を結び、様々な情報交換や連携が出来る体制が整っていることは、事業運営を行う上で大変大きなプラスとなっていると感じた。

令和5年6月に開所した「おおぞら」は、家庭にも居場所のない子どもに対して、子どもとその家庭が抱える多様な課題に応じて、生活習慣の形成や学習のサポート、進路等の相談支援、食事の提供を行うとともに、子ども・家庭の状況をアセスメントし、関係機関へのつなぎを行う等の支援を包括的に提供しており、居場所へ通う児童の様子から遠足やクッキングなどの体験イベントが好評であるとのことであった。「こども家庭センター」から少し離れた住宅街にある現場も視察させていただいたが、空き家を「おおぞら」居場所として利用されており、利用する児童にとっては、まるで自宅にいるような環境で職員（学校OB）さんのアットホームな雰囲気や対応が安心して落ち着ける居場所となっている

のではないかと感じた。また、開所したばかりで手探り状態ということでもあるが、現在、5名の児童が登録利用されている。他にも、市内には自宅から外へ出ることができない児童がいるようであるが、今後どのようにしたら新たに登録して利用してもらえるのかという課題や学校現場との連携の難しさもあるとのことだった。そして、現在の運営は、市直営で実施しているが、3年後には民間・NPO法人へ委託できるように学校教員OB等に検討・準備して考えられていることに感心をした。何をもって成果や効果とするのかという大変難しい事業でもあるが、共通の課題を持つ加西市としても大変勉強になった。

【愛媛県松山市】

四国最大の都市として伊予鉄のバスや電車の公共交通が市民の足を担う利便性の高いまちで、野志市長が掲げておられる「より優しく より強い まつやまへ ～一人でも多くの人を笑顔に～」の公約のとおり、優しさと温かさを肌で感じ取ることができた。

1. 高齢者いきいきチャレンジ事業について

令和5年7月12日に「健康アプリ」を導入し、市内在住で65歳以上のスマートフォンをお持ちの方であれば手軽に参加できるとともに、ポイント利用を電子マネーの交換にも拡大されたことで、利用者の拡大により期待が持てる事業にリニューアルされている。

従来は、ポイントの付与が対象イベントの参加のみであったが、ウォーキングや脳トレ、食事管理などにも拡大されるなど、高齢者の日々の健康管理の習慣化、健康寿命の延伸に大きく寄与するものとなっている。付随する認知機能テストも有用で興味を持てた。

また、アプリ運営企業との共同研究という両者ウィンウィンのスタイルで導入され、大きな経費をかけずに運用できており、他の自治体等への拡大も期待でき大変参考になった。

2. 夏休み親子市議会体験ツアーについて

市内の小学5・6年生とその保護者を対象に募集して、議場等の見学や模擬市議会の体験をとおして、市議会活動への関心を深めてもらうことを目的として、平成27年度から令和5年度まで（令和2・3年度はコロナ禍で中止）7回実施されていた。

市長役や議長役の選考は主催者が行い、過去の市議会で行われた質問と答弁を参考に主催者が作成して事前に参加者に送付して実施されていた。

子ども議会は、自治体によって様々なスタイルや実施方法でされているが、もう少し子どもたちが自主性を発揮できるような工夫をされても良いのではないかとの感想を持った。

【愛媛県伊予市】

短い滞在時間であったが、市職員の方々をはじめ、お出会いした皆様に大変優しく接していただき、自分自身の意識や行動を振り返る良い機会となった。

1. 子どもの居場所「おおぞら」事業について

不登校の小中学生の居場所をつくり、心身の生活の改善を図ることを目的として、令和5年6月1日に開始された事業で、空き家を借り上げ、校長 OB 等の家庭児童相談員や調理師を配置し、開始3年間は市直営で運営し、その後はNPO法人への業務委託を検討されている。

「不登校、引きこもりの児童生徒をなんとか外へ出してあげたい」という学校現場の先生方の熱い思いを受けて、財務当局と協議を重ねられ、国県の補助を受けて事業化されたが、課題は山積しており、オープンしたばかりで利用登録者数は5人と少なく、まだ実績も出ていない中、対象者との人間関係作りに労力を割かれておられるようだった。また、教育委員会や学校現場との連携・調整が重要にもかかわらず、市長部局と教育委員会部局との壁に苦労をされていた。

担当者は、一人でも多くの引きこもり児童生徒が、教育支援教室「はばたき」へつながることを目指しておられる。しかしながら、直ぐに成果が出るものではなく、また何をもって成果とするのかも難しい事業であり、今後の事業評価に関心がある。

◎愛媛県松山市

1. 高齢者いきいきチャレンジ事業について

加西市では、運営費はポイント還元分も含め、約1,000万円。平成27年度から活動量計を用いた運動ポイント事業を開始し、令和元年度からスマートフォンのアプリでの事業展開に移行した。また北播磨広域定住自立圏の広域連携事業として、まずは令和2年度から多可町が参入し、1市1町で事業を実施している。事業の目的は、歩くことで健康になる、ラジオ体操への参加をはじめとする各種事業に参加するとポイントを付与することで、外出することを促進することにある。また、参加者は、当初、65歳以上の高齢者を対象としていたが、20歳以上とし、若いころからの健康づくり、歩く習慣化を目指している。

松山市では、平成30年度から「高齢者いきいきチャレンジ」事業をスタートし、令和5年度から健康アプリを導入し、市内在住の65歳以上を対象に、ポイントを付与する対象を広げ、利用方法を拡大した。

アプリで貯められるポイントは、歩くことに加え、脳トレ、食べる（目標食事品目を達成）、起動（アプリの起動）、体重・血圧・血糖の登録（いずれかの登録）、認知機能テストに回答、対象イベントへの参加、健診受診等がある。

特筆すべきは、楽しく脳トレ（脳トレゲームで他のユーザーと対戦）、きちんとした食生活（脳にいい食品をバランスよく食べる）がアプリ内にあることが、総合的な高齢者の健康づくりが行われていることにあると考える。また、アプリ開発者である株式会社ベスプラとの共同研究による事業でもあることから、事業費はかなり安価に抑えられている。

一方では、スマートフォンを持っていない方は、従来のチャレンジカード（紙カード）にスタンプを押す方法で事業参加ができ、イベントに参加し、チャレンジカードにスタンプを2つためることで、道後温泉飛鳥乃湯泉の入浴券と交換ができるようにされており、スマートフォンを持っていない高齢者にも配慮されていることは参考としたい。

また、脳科学に基づいた脳の健康維持アプリ『脳にいいアプリ』等の導入についても検討し、新たな加西市の運動・健康ポイント事業へと発展していくことが出来ればと考える。

2. 夏休み親子市議会体験ツアーについて

加西市では、主催が行政側の担当課・秘書課で、小学生の市政に対する素朴な疑

問、意見を聞く事を目的に小学6年生を対象に実施していた。各校2名ずつ、学校を通じて参加依頼し、質問は、児童に委ねる、答弁者は一時、担当課長の答弁とした時もあったが、本会議と同様であった。夏休み中に開催し、議場への送迎は各校の教員に依頼していた。

松山市では、主催は、議会事務局。親しまれる議会、開かれた議会、身近な議会を、子どもの時期から認識してもらうことが目的。学校は関与していない。市広報紙等で親子での児童とその保護者を募集。議場への送迎は保護者。議長、議員役、答弁者役は、議会事務局が任意に決めている。

質問・答弁は、実際の本会議での内容とし、議会事務局職員が平易な言葉に作り替えたもので行っており、小学生用向けに工夫を凝らされている。

開催後のアンケートでは、児童、保護者とも議会に対する関心度が高まっている。市政、議会への関心・意識の醸成といった点で、効果があると思われた。

参加にあたっては、無理やり・強制的・個別の勧誘感がなく、自主的なものであるとともに、学校の教職員の関与・負担がかからないように配慮されており、参考すべきことである。

加西市においても、以前実施していた「加西っ子議会」の前例をそのまま踏襲するのではなく、開催方法・内容もリニューアルした形態で開催したい。

◎愛媛県伊予市

子どもの居場所「おおぞら」について

市長の指示、方針による事業によるものではなく、従事する現場の職員、関係職員からの自主的な課題解決型の提案による事業が展開されている。

補助メニューを活用した事業開始、市直営による事業運営ではあるものの、半永久的にその形態を継続するのではなく、将来的にはNPO法人等への事業委託を考えられており、同時にNPO法人の育成が行われているなど、将来を見据えた持続可能な事業となることを念頭におかれていることについて、市のスタンスが明確にされていることは大いに参考としたい。

学校等の空きスペースを活用せず、空き家利用による施設は、市内の空き家の解消、空き家の利活用にもつながる施策でもある。

自宅から外へ出て行くことは、不登校の児童、生徒、特にひきこもりの児童、生徒にとっては、かなりの自己葛藤と勇気が必要であると思われる。出かける先が学校等の敷地内であれば、周りからの目もあり、かなりハードルが高い。これらの抵抗感に対して、子どもの視点、利用者目線に重きを置き、戸建てで、しかも周辺の住宅事

業・環境を考慮した空き家利用での実施について、関係機関、部署との調整、連携により実現した担当職員の子どもたちの支援に対する情熱を感じる。

また、送迎は、市の公用車を利用されているが、市名や施設名等、何も表示しない車両を使用されているため、周囲の目からも配慮されている。

運営費の大半は、人件費とのことであったが、空き家の所有者には、賃料が支払われている。「おおぞら」の施設として活用していく上で、改修を行われているが、これは所有者が行い、その改修費を勘案して賃料が支払われている。

今年度に事業開始となり、これから運営が本格化していくこととなるが、今後もこの子どもの居場所「おおぞら」の動向に注目していきたい。

愛媛県松山市(令和5年8月21日視察)

① 視察テーマ 高齢者いきいきチャレンジ事業の取り組みについて

誰もが自分らしく、いきいきと暮らせる松山づくりを掲げ、高齢者の外出機会の創出をはじめ、各種健康相談や検診の充実など、すべての世代の健康づくり活動を推進し、健康寿命の延伸を目指すことを目的とし、その一環としてこの事業をしている。イベント等への参加で貯めたポイントを道後温泉別館 飛鳥乃温泉の入浴券と交換を実施。また、この事業をリニューアルし65歳以上約14,000人を対象に健康アプリの導入、毎日の健康のため、万歩計機能、脳トレ・食事管理機能を充実させている。担当としては、フレイル予防の目的もあり、草根で健康アプリの普及啓発に努めていきたいとのこと。慣れない高齢者が電話で問い合わせや窓口対応が多くなってきており普及効果が出てきている。

② 視察テーマ 夏休み親子市議会体験ツアーについて

次代を担う子ども5・6年生とその保護者を公募し、議場等の施設見学や模擬市議会を体験させ、市議会活動への関心と理解を深め、夏休みの自由研究などにも活用してもらうことを目的としている。今年は、7月30日に開催し、子ども29名、保護者30名が参加した。担当の議会事務局は、公募なので役の振り分けに気苦労があるとのこと。加西市議会も公報広聴の一環として、夢ある小・中学生や18歳になる高校生を対象の議会の開催を思った。

愛媛県伊予市(令和5年8月22日視察)

① 視察テーマ 子どもの居場所「おおぞら」の取り組みについて

今年6月1日にオープン。いろいろな事情で学校等へ行くことが難しく、家庭で多くの時間を過ごしている小中学生に、将来その自立に向けた生活習慣の形成や社会体験を提供するとともに、その家庭に対して、関係機関との連携等を含めた、学校や社会とのつながりの支援。対象は、市内在住の小・中学生が不登校で支援を必要としている小・中学生及びその家族。現在は5名が登録。一日の流れとしては、送迎により12時来所自由活動、18時から19時夕食、片付け、20時退所(送迎)。利用料は無料。自由時間は利用者の「やりたい」気持ちを最優先にしており、イベントは8月にミニ遠足を3回、わくわくクッキングを3回実施し、好評だったとのこと。

5年度予算は、21,998千円(うち国県16,137千円)、3年後からはNPO運営の予定。立ち上げに関しての苦労話や運営に対しての問題点などの説明が大変参考になった。閑静な住宅街にある借家を改装した居場所「おおぞら」の施設案内もあった。この事業の説明を前に子ども家庭センターの取り組みについて詳しい説明を聞いた。加西市でも懸案事項であり大変参考になった。

改革未来・自民の風
行政視察 行程表

8月21日(月)

08:52 姫路駅発(ひかり533号)

09:13 岡山駅着〔乗り換え〕

09:25 岡山駅発(しおかぜ5号)

12:10 松山駅着

◆昼食、JR松山駅前まで徒歩1分

13:41 JR松山駅前(伊予鉄道JR松山駅前線(道後温泉行))発

13:50 市役所前(松山)着

徒歩2分

14:00~15:30

◎松山市視察「高齢者いきいきチャレンジ事業の取り組みについて」

◆宿泊〔松山市内〕ホテルアピス松山 TEL089-941-9003

8月22日(火)

徒歩3分

08:11 県庁前(愛媛)(伊予鉄道JR松山駅前線)発

08:22 JR松山駅前(大糸線)着

徒歩1分

08:45 松山駅発

09:12 伊予市駅着

タクシー ※伊予市総合保健福祉センター 1分

10:00~11:30

◎伊予市視察「子どもの居場所「おおぞら」の取り組みについて」

◆昼食

13:08 伊予市駅発(宇和海14号松山行)

13:19 松山駅着〔乗り換え〕

13:26 松山駅発(しおかぜ20号)

16:11 岡山駅着〔乗り換え〕

16:40 岡山駅発(のぞみ40号)

16:58 姫路駅着

令和5年8月21日【愛媛県松山市】

○「高齢者いきいきチャレンジ事業の取り組みについて」

○「夏休み親子市議会体験ツアーについて」



令和5年8月22日【愛媛県伊予市】

○「子どもの居場所『おおぞら』について」

